

磐城時報

編輯人 岡田弘成
印刷所 磐城時報社
發行所 磐城時報社
電話 一四九
寄附金 毎月五圓
訂金 半年三十圓
一年六十圓
廣告料 一行十圓
印刷 日曜、祭日、休業日
休刊

成績良好であつた 昭和二年度決算

平町昭和二年度決算委員會は去上したが、農村不況の折柄現在
二十七日から開會二十七日に生徒は百名に満たざる状態に
終了したが、歳入は二十九萬九千九百九十九圓九角九分
千七百九十九圓七十三分で歳出は生徒費を百二十名として豫
算十九萬三千三百七十一圓七角三分總額を八千三百四十圓に削減
錢、臨時部八萬九千七百七十四圓五角五分に決定した
十七錢、計二十八萬二千五百四
十五圓六十四錢で差引一萬七千
三百五十四圓九錢となり之は翌
年度繰越金となる、之を二年度
當初の豫算額歳出經常部十九萬
四千七百八十七圓五十三錢、臨
時部八萬七千九百一十三圓三錢
計二十八萬二千六百九十八圓六
十六錢に比較すれば經常部に於
て千四百六十六圓六錢の減、臨
時部に於て千六百六十三圓四十四
錢の増となり結局總額に於て二
百五十三圓二錢の増となつてゐ
るに過ぎない、以上の如く當初
の豫算に大なる差を來さなかつ
たといふ事は豫算方針がよかつ
たのと豫算執行が適當であつた
ためか、の如き好結果を見たも
のである。

萩原氏と大森氏 委員會で反目 町長改選の鬱憤か

町長改選以來平町會議員の中立學校長に對し委員會で伏見町長
派と民政派とが事毎に反目してを問責するに漏らしたのを委員
たる事は一般の認める處である 萩原義雄氏が聞き「公平なる態
が、昨二十七日平町會の昭和二度で審議すべき委員會の席に、
年度決算委員會に於て委員であらぬ私憤を挟んで臨むとは不届であ
る大森勇氏は過般擁立した青沼君と大森氏を問責したので大
氏が町長に落選したため密かに森氏も之に應酬し混乱に陥つた
伏見町長に對し面白からぬ氣持が、事の是非は町民の判斷に委
を七名とし原案を九千五百圓計
ちを抱いてゐたためか、平町小
事とするが、かゝる事は平町
様で年々苦情の種となつてゐる

自動車や卵商人を 突き飛ばして逃走 鶏卵百五十個メチャク

平窪村字下平窪柏原チヨ（二九）に鑑がみ植田署では暴風を徹底
は二十四日午前十時頃平町へ卵的に打破すべく錦村栗山田舜次
百五十個價格六圓余を背負つて
行商に出る途中好間村字川中子
縣道で後方から疾走して來た乗
合自動車（番號不明）に背後から
突き飛ばされ卵を全部滅茶々に
砕かれ自動車は逃走して了つた
ので平署に告訴した。

正月の木 盗伐した

石城郡錦村地方は古來の風習と
して舊正月庭前にお正月様と稱
して手頃のくぬぎ二本を飾るが
そのくぬぎは自己所有と他人所
有とを問はず若し他人の山林か
ら盗伐して來てもこの場合に限
り窃盜とならぬものであるとの
慣習を續ける舊年末に際しこ
のたの被害各所に相當ある模
様で年々苦情の種となつてゐる

馬場林鳥氏 短刀で刺さる カフエーステージで飲酒中 加害者は萬年筆商人

二十七日午後八時頃平町白銀町の短刀を出して馬場の右下腹部
西洋料理業カフエーステージ方を突き刺し更に顔面に斬りつけ
て平町胡麻澤居住東京毎夕新聞社職員の平野前派出所から小林
販賣人林鳥事馬場京（二七）外二巡查急行し加害者八神を逮捕し
名が飲酒中同じく飲酒中であつた平町十五丁目藤田屋旅館居住
平町五丁目釜屋商店諸橋守次氏
は鹿島村の罹災者五十三名に對
し一戸五圓平均の炊事道具を同
村役場を通じて寄附した。

虐待されて 老婆の訴へ

戸籍違反がばれて
送局 される
勿來町生當時福島市仲間町居住
吉成ふく（七〇）は次女もそ（四
七）の虐待に堪え兼ね二十七日
午前八時頃福島署に保護方を願
ひ出た。取調の結果以外な
ものである。

嵐とそのひと時 蕭 明

私のふるさとそれは現在住
まつてゐるこの平の町から世
の中を狭く縮める鐵道の便を
かつても尚一日と半日はかゝ
る本州の隔て内海沿岸の一都
市であるが、この間のやうに
毎日々々砂塵を飛ばし死をば
ねて吹きまくる強い風のある
夜などは、殊更らこのふるさ
この思出が頭に浮んでくる。
今では會はなくなつた私の叔
母の隠居所か手のことばが
かりほど近いお寺の境内だが
その東南隅にあつた一本の
銀杏の太木が聳えて立つてゐ
る。落葉の頃その境内を見る
の、それ等の樹の生命の方
が身に迫つて來るのかと思は
れることがある。特に私の感
じるのは境内の端に登れてゐ
るその銀杏の樹である。高さ
は五丈ほどもあり、お寺の
本堂裏から取り圍んでゐる雜
木林よりか、一段と際だつて
その姿を表はしてゐる。樹は
もとより古い。落葉してゐる
時に見ると、幹はふしくれ立
つて鐵道が見える。枝はこ
の樹の特長として、丈夫そう
な柔かな味のない直線的なの
が幹に發生してゐる。それが
先端の方になるに従つて少し
ふくらんで上端はよく見え
ないが梢がしんで見える。銀
杏の樹は大概かうした特殊の
輪廓を持つてゐる樹である。
この樹を見る度にこの樹の種
の歴史が思ひ浮かべられる。

貸家あり 住宅向 商店向 委細面談 平町新川町 中野勇吉

事實が暴露しふくは戸籍法違反
として近く送檢される事になつ
た。即ちふくの夫福次郎が存命
中次女もを愛する處から同人
夫婦を扶養すべき長女は（五
〇）を相馬郡小高町請戸川水電
の事務員甲高松四郎に嫁入させ

清野氏方の看護婦 鹿島罹災民に同情

平町南町看護婦會會員一同は、鹿島村の大火罹災者に非常に同情し、會長清野きよ子氏と共に慰問方法を協議中であつたが、金四十圓を出しあつて送る事とし、二十八日鹿島村役場を経て贈つたが奇蹟な行爲であると言はれてゐる。

下駄屋雇人 集金を横領

田村郡七郷村生れ當時田村郡大越村字上大越下駄商佐藤鶴吉方雇人猪狩喜吉(十八假名)は二十七日午前八時頃神侯方面の集金を依頼されたのを奇貨とし集金数十圓を横領し東京方面に高飛びする目的で平驛に下車した處を平驛に捕はれた。

勤務中に チブス感染

豊間で感謝状 平町南町看護婦會清野きよ子氏方看護婦猪場つねは豊間村隔離病舎に勤務中チブスを感染し一時危篤を傳へられたが全快し二十七日歸平したが、豊間村長志賀兼吉氏はその功勞大なるものありとし金一封に感謝状を添え贈呈した。

適度の酒香

酒その物が事實有害であるが否かと云ふ点に就ては識者専門家に於て甲論乙駁がある。長壽者は平均アルコールを適度にこのむ人に多いのは必ずしも酒そのものが人体に有害

でなくして、飲酒の程度により結果の良否が生れてくるのではあるまいか。人体にはなくてはならない米、パンその物でも一人一日一升宛食したならば如何、牛乳そのものも毎日數升をのめば如何。

必ずや人体に害毒を流さんと思ふ、幸ひにして本能的に過量をいとうが故に過度に攝取されるが酒その物は不幸にして過度に飲酒され易い性質を有して居るからで、往々にして飲酒者の狂態を來さしめ且また身を害するに至るものであると思ふ。

酒は攝取者の攝取心理を過度に飲酒し易いものである。度を越すこと云ふ事は恐らく何ものでも人体に取つて悪果を生ずる事と思ふ。アメリカ、ロシアが法令を以て禁酒を施行しても一片の空文であつて其の裏面に飲酒者が多い。

我國でも酒について色々の法案が出て居ても實行が完全でない事は如何に法令で命じても人間の本能的嗜好が止められぬ事を裏書きしてゐる次第である。

重ねて云ふ、日々の攝取物の上に於ても且また治病上の藥品の上に於ても個々に於ても酒ならば人体に有害なるものも澤山ある事と思ふ。必ずしも酒のみが人体に有害であるとは思はれない、不幸にして酒のみが適量を失ひ易く、好まれ易いがために悪果を來して居る事が禁酒法案となつたのであらう。猶云はん、人間の嗜好を規則で止める前に自己反省、個人互いの衛生を重んずる事を希望する。

鳥御料理 よせなべ類 天井 仕出しは迅速配達致します 平町南町平館隣り 電話四二四番

松村 腸胃病 淋病 皮膚病 専門 院 醫學科 (七〇一話電町平)

共済 融金ノ易 融金ノ味 融金ノ誠 融金ノ意 融金ノ誠 融金ノ意 融金ノ誠 融金ノ意

驚いた!!! 平・加納活版所の印刷物

相馬郷友會 會員に告ぐ 馬城會平支部 聯合懇親會を左の如く開きます。奮つて御出席下さい。

柏木氏送別會 三月一日午後五時 (出發は二日午前九時一分) 場所 平町谷口樓 會費 貳圓 (當日御持參の事) 申込場所 警城新聞社 (電話五四六番) 奮つて御出席下さい

主 在平日刊記者有志 平町有志一同 新人の意氣全篇に漲る熱力の大雄篇 松竹下加茂作 監督星哲六 主演阪東妻三郎、千原しのぶ 権勢を謳ひし徳川三百年榮華の夢果敢なくも破れて立つ 若くして熱血燃る義勇隊の悲壯なる血涙史... 破れて立つ 若くして熱血燃る義勇隊の悲壯なる血涙史... 破れて立つ 若くして熱血燃る義勇隊の悲壯なる血涙史...

花光録 第一編 時天保の頃徳川十二代將軍の御代、妖婦あり美女あり 怪盜あり剣士あり狂及解るものを斷つて去る斬奸の主は 廿八日より上映 料金普通 平館

本縣酒界の最高清酒 於全國清酒品評會優等酒入選 於福島縣下聯合品評會最高優等酒入選 本縣 會津銘酒 花春 一升代金壹圓五十錢 特價發賣 白萩支店 綠川酒店 釘屋酒店 警崎屋酒店

警城共濟病院組織 內科 小兒科 (院長毎日診療) 副院長 醫學博士 難波 內科部長 醫學士 五十嵐 外科部長 醫學士 中林 外科部長 醫學士 鈴木 產婦人科部長 醫學士 五十嵐 產婦人科部長 醫學士 五十嵐

共濟病院 本院醫學士 岡 本院主事 賀 澤 本院主事 賀 澤 本院主事 賀 澤 本院主事 賀 澤

最新滋糧 阿春刺 山野邊藥局 平町專賣所 五丁目角